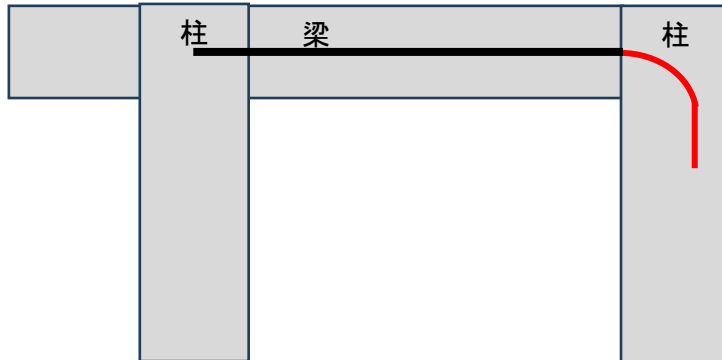


梁主筋の定着長さが根拠不明

梁の主筋定着が、35dにならずに40dで算出されている、あるいは根拠不明の長さで算出されていると指摘されることがあります。



<ケース1>

(SD345)					
上端主筋	D22	6.63×3×1×1=	19.89	5.50+0.25+0.88	
圧接	D22-D22	1×3×1×1=	3.00		
下端主筋	D22	6.63×3×1×1=	19.89	5.50+0.25+0.88	
圧接	D22-D22	1×3×1×1=	3.00		

40dで計算されている

40dでも35dでもない

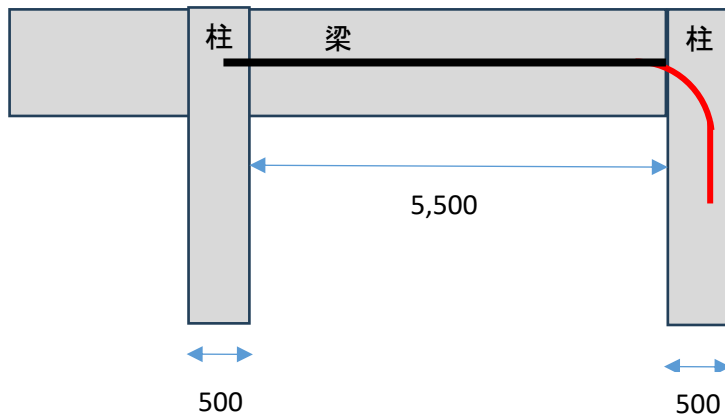
<ケース2>

(SD345)					
上端主筋	D22	6.48×3×1×1=	19.44	5.15+0.25+1.08	
圧接	D22-D22	1×3×1×1=	3.00		
下端主筋	D22	6.48×3×1×1=	19.44	5.15+0.25+1.08	
圧接	D22-D22	1×3×1×1=	3.00		

梁の主筋定着は、「計算条件設定」の設定に従います。
初期設定では、以下のようになっています。

40d、L2、柱巾の3/4+余長、La+余長の4つの数字のうち、一番大きい値を定着長さとして採用するという設定になります。

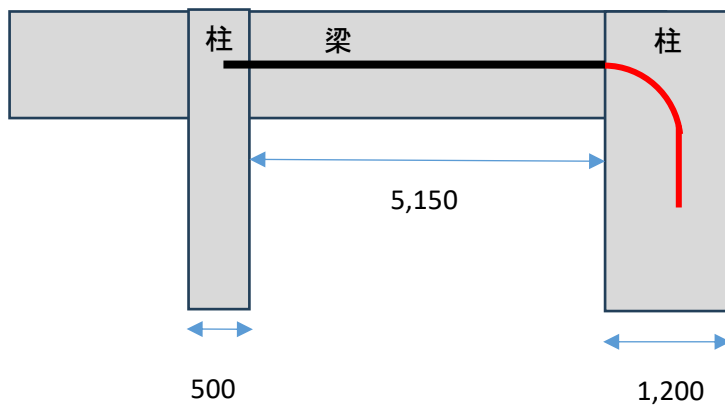
1. ケース1の場合



- ・40 d $\Rightarrow 0.88$
- ・L2 $\Rightarrow 0.77$
- ・柱巾3/4+余長 $\Rightarrow 500 * 3/4 + 8 d = 0.55$
- ・La+余長 $\Rightarrow 20 d + 8 d = 0.62$

よって、一番大きな値の0.88が採用

2. ケース2の場合



- ・40 d $\Rightarrow 0.88$
- ・L2 $\Rightarrow 0.77$
- ・柱巾3/4+余長 $\Rightarrow 1200 * 3/4 + 8 d = 1.08$
- ・La+余長 $\Rightarrow 20 d + 8 d = 0.62$

よって、一番大きな値の1.08が採用

※単純にL2の値で計算したい場合は、この設定をL2に変更します。

